

令和 2 年 6 月 12 日現在

機関番号：32206

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12169

研究課題名（和文）幼児を育てる保護者のヘルスリテラシー尺度の開発とヘルスリテラシーの関連要因

研究課題名（英文）Development of a health literacy scale for parents raising young children and factors related to health literacy

研究代表者

世良 喜子 (Sera, Yoshiko)

国際医療福祉大学・保健医療学部・教授

研究者番号：50461736

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：研究の目的は、幼児を育てている保護者のヘルスリテラシーの向上への支援に向けて、幼児の保護者のヘルスリテラシー尺度の開発を行うことである。ヘルスリテラシーの先行研究から幼児の保護者のヘルスリテラシーの概念と枠組みを検討し、看護研究職のブレインストーミングや専門家からのヒアリングから保護者のヘルスリテラシーの尺度原案を作成した。幼児の保護者に対して調査を実施し、その結果作成した幼児の保護者のヘルスリテラシー尺度の信頼性、妥当性が確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

幼児期は、生体の未熟性から健康状態が不安定になりやすい。また健康行動を獲得し、生涯の健康の基盤をつくる重要な時期である。そして家族の擁護なしでは生活できない。そのため保護者のヘルスリテラシーが、幼児の健康や生涯の健康に大きく影響する。今回開発した幼児の保護者のヘルスリテラシー尺度により、保護者のヘルスリテラシーを測定することが可能となった。この尺度の開発により、幼児の保護者のヘルスリテラシーの程度に応じた介入が可能となり、保護者のヘルスリテラシー向上への支援に資することができる。

研究成果の概要（英文）：This study aims to develop a health literacy scale for parents raising young children to support improvements in the health literacy of these parents. Reviewing previous studies of health literacy, this study examined the concept and framework of the health literacy of parents of young children, and created a draft health literacy scale based on brainstorming with nursing researchers and hearings with experts. A questionnaire survey with the draft scale was conducted with parents of young children, and the reliability and validity were established.

研究分野：生涯発達看護学

キーワード：ヘルスリテラシー 幼児 保護者 尺度

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

子どもの健康格差の存在とその拡大が示唆され、その是正が重要課題となっている。欧米においては、健康格差の減少の効果的戦略としてヘルスリテラシーの向上が挙げられている。

ヘルスリテラシーとは、健康の課題や増進のために、必要な情報やサービスにアクセスし、理解し、評価し、意思決定をして行動できる能力であり、人々の健康状態やQOL・健康寿命に関連する重要な要因とされている。米国ではヘルスリテラシーの育成を国家的優先課題とし、国連経済社会理事会 (ECOSOC) は、大幅な健康アウトカムのためにヘルスリテラシーを向上させるアクションプランの開発を求めている。

保護者のヘルスリテラシーと子どもの健康アウトカムが関連していることが、システムティックレビューにより明らかにされている (L.M.Sanders, et al, 2009. Yin HS, et al. 2012)。幼児期は、生体の未熟性から健康状態が不安定になりやすい。また健康行動を獲得し、生涯の健康の基盤をつくる重要な時期である。そして家族の擁護なしでは生活できない。そのため保護者のヘルスリテラシーが、幼児の健康や生涯の健康に大きく影響する。しかし保護者は、核家族化のなか子どもをケアする経験の機会をもたないまま親になることが多く、さらに身近に相談する人もいない状況におかれている。情報はあふれていても、子どもの健康に関する適切な情報を入手し、情報が信頼できるかを評価し、意思決定して行動することに困難が多い。Renkert S(2001)は、母親学級の提供者と受講者を対象にした研究を行い、健康教育の成果を知識の伝達からヘルスリテラシーの向上へと専門職の思考を転換する必要性を提起している。

< 幼児の保護者のヘルスリテラシー尺度の開発の必要性 >

子どもの健康や生涯の健康の実現のためには、幼児の保護者のヘルスリテラシー向上への支援やヘルスリテラシーの程度に応じた介入が求められる。そのためには、保護者のヘルスリテラシーを測定する必要がある。ヘルスリテラシーの評価尺度は、Test of Functional Health Literacy in Adult (TOFLA) 等が開発されている。我が国でも、性成熟期女性や糖尿病患者のためのヘルスリテラシー尺度が作成されている。しかしこれらは成人を対象にしたヘルスリテラシーの評価尺度である。子どもの健康アウトカムと保護者のヘルスリテラシーの関連を見た研究でも、この TOFLA 等が用いられている。しかし保護者のヘルスリテラシーは、自分自身ではなく、子どもの健康課題に対して適切な情報を得て意思決定して行動する能力という特異性がある。乳幼児のケアのための指示を理解する能力を測定する Parental Health Literacy Activities Test (PHLAT) が開発されている。しかしこの PHLAT をはじめ TOFLA 等の尺度は、健康情報の読解や知識的な側面のみを評価する尺度であり、包括的にヘルスリテラシー能力を測定するものではない。そのため Sorensen K ら (2014) によって成人を対象にした包括的な尺度である European Health Literacy Survey Questionnaire (HLS-EQU- Q47) が開発されている。しかし子どもの健康における保護者のヘルスリテラシーについて保護者の包括的なヘルスリテラシーを測定する尺度は、欧米及び我が国においても開発されていない。

2. 研究の目的

本研究は、幼児を育てている保護者のヘルスリテラシーの向上および保護者のヘルスリテラシーに応じた支援に向けて、幼児を育てている保護者の包括的なヘルスリテラシーを測定する尺度を開発し、さらに幼児の保護者のヘルスリテラシーの関連要因を検討することを目的とした。

3. 研究の方法

1) 幼児を育てている保護者のヘルスリテラシー尺度原案の作成

幼児を育てる保護者のヘルスリテラシー尺度原案の作成プロセスは下記の通りである。

(1) 先行研究および「The Health Literacy Tool Shed」を用いて収集した既存のヘルスリテラシーの尺度から、幼児の保護者のヘルスリテラシーの概念と枠組みを検討した。

(2) 先行研究および既存のヘルスリテラシー尺度および看護研究職および保護者・保育士から聞き取りをもとに、アイテムプールを作成した。

(3) 作成したアイテムプールを研究者らで検討し、さらに看護研究職のブレインストーミングから保護者のヘルスリテラシーの質問項目を作成した。作成した質問項目について保護者、保育士、小児看護師、保育園や幼稚園の看護師、保健師に各質問項目の内容妥当性、表現の明確性等についてヒアリングを行い、質問項目の削除と表現の修正を行った。再度看護研究職によるブレインストーミングを行い、質問項目配列の適切性、回答のしやすさ等を検討し、尺度原案を作成した。

2) 幼児を育てている保護者のヘルスリテラシー尺度の妥当性と信頼性の検討

A 市内の保育園に通園する幼児の保護者に対して無記名による自記式質問紙調査を実施した。

調査項目は、対象者の属性（性別、年齢、配偶者の有無、子どもの人数、年齢、家族形態、職業、就業状況、最終学歴、経済状態）、幼児を育てる保護者のヘルスリテラシー尺度原案、基準関連妥当性をあきらかにするために European Health Literacy Survey Questionnaire ; HLS-EU を実施した。さらに安定性に関する信頼性を追求するために、再テストを実施した。信頼性の検証は、折半法と Cronbach の係数で確認した。テスト-再テスト法により、1回目・2回目の相関係数を算出した。妥当性を検証するために、探索的因子分析を行い、さらに基準関連妥当性を確認するために HLS-EU との相関をみた。

4. 研究成果

1) 尺度原案の作成

Sorensen らのヘルスリテラシーの統合モデルをもとに3領域にわたる4つの能力を枠組として用い、先行文献から346項目のアイテムプールを作成した。そして研究者らの検討および看護研究職のブレインストーミング、専門家からのヒアリングから、最終的な尺度の質問項目を、ヘルスケア、疾病予防、ヘルスプロモーションの3つの領域の健康情報の入手、健康情報の理解、健康情報の評価、健康情報の活用の4つの能力からなる32項目で構成した。回答には6件法を用い、1は「とても簡単」、2は「簡単」、3は「どちらかといえば簡単」、4は「どちらかといえば難しい」、5は「難しい」、6は「とても難しい」とした。

2) 幼児を育てている保護者のヘルスリテラシー尺度の妥当性と信頼性

調査票は、幼児を育てている保護者942名に配布され、551名から回収された（回収率58.5%）。回答に不備のない478名を分析対象とした（有効回答率86.7%）。

幼児の保護者のヘルスリテラシー尺度案の信頼性、妥当性について、調査から得られたデータを分析した。そして項目分析、構成概念妥当性の検討、基準関連妥当性の検討、内的整合性の検討、モデル適合度の分析結果の検証を進めた。その結果、作成した幼児の保護者のヘルスリテラシー尺度の信頼性、妥当性が確認された。

さらに文献検討から得られた先行研究から明らかにされているヘルスリテラシーの形成要因と挙げられている要因を踏まえて、幼児の保護者のヘルスリテラシーの関連要因について検討した。

子どもの健康格差を改善するためには、保護者のヘルスリテラシーの向上に向けた支援が必

要である。開発した幼児を育てている保護者のヘルスリテラシー尺度により、保護者のヘルスリテラシーを測定することが可能である。今後保護者のヘルスリテラシーの程度に応じた適切な介入や教育プログラムの構築を進めていくことが課題である。

<引用文献>

- 1) Sanders LM, Federico S, Klass P, Abrams MA, Dreyer B. Literacy and Child Health: A Systematic Review Arch. Pediatr Adolesc Med. 2009 Feb;163(2):131-40
- 2) Renkert S, Nutbeam D: Opportunities to Improve Maternal Health Literacy Through Antenatal Education: An Exploratory Study. Health Promot Int. 2001 Dec;16(4):381-8.
- 3) Yin HS, et al. Perceived Barriers to Care and Attitudes Towards Shared Decision-Making Among Low Socioeconomic Status Parents: Role of Health Literacy Acad Pediatr. 2012. 12(2):117-24
- 4) Sørensen K, Pelikan JM, Röthlin F, et al; HLS-EU Consortium. Health Literacy in Europe: Comparative Results of the European Health Literacy Survey (HLS-EU) Eur J Public Health. 2015 Dec;25(6):1053-8

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 世良喜子、鈴木英子
2. 発表標題 幼児を育てる保護者のヘルスリテラシー尺度の開発と関連要因の研究
3. 学会等名 第9回国際医療福祉大学学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 世良喜子、鈴木英子、稲葉史子
2. 発表標題 幼児を育てる保護者のヘルスリテラシー尺度の開発
3. 学会等名 第8回国際医療福祉大学学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 世良喜子 鈴木英子
2. 発表標題 幼児を育てる保護者のヘルスリテラシー尺度の開発に向けた基礎研究
3. 学会等名 第7回国際医療福祉大学学会学術大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 英子 (Suzuki Eiko) (20299879)	国際医療福祉大学・医療福祉学研究所・教授 (32206)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	高山 裕子 (Takayama Yuko) (00637803)	東京医療保健大学・医療保健学部・准教授 (32809)	
研究 分担者	稲葉 史子 (Inaba Fumiko) (20756829)	国際医療福祉大学・保健医療学部・助教 (32206)	